



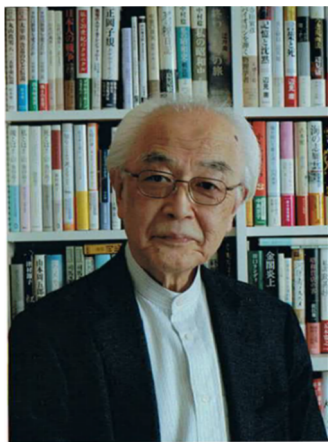
立教女学院短期大学主催・杉並区教育委員会共催

第7回 立教女学院短期大学図書館公開講座

演題：「大人の気づき、子どもの成長 ～絵本は心育てのバイブル～」

日時：2016年11月19日(土)13:30～15:00

場所：立教女学院聖マリア礼拝堂(京王井の頭線三鷹台駅)



講師：柳田邦男氏

ノンフィクション作家、評論家

1936年(昭和11年)栃木県鹿沼市生まれ。

1960年東京大学経済学部卒業。NHK入局、記者として事故・災害・学術・社会問題などを担当。記者時代に連続航空事故の謎を追った著書『マツハの恐怖』で、72年第3回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。その後、作家活動に入り、記者時代以来、半世紀以上にわたり、現代人の「いのちの危機」をテーマに、災害・事故・公害・労働災害・戦争・原爆被爆等に関する記録作品や評論・エッセイの執筆と研究・講演活動を続けている。

最近、人生終末期の生き方と死生観、それを支える医療のあり方に関する執筆と講演に力を入れている。さらにこれからの時代を生きる子どもの心の発達とそれを支える大人たちの感性の再生のためには、絵本(特に読み聞かせ)に大きな影響力があることに気づき、全国各地で家で親子で本を読む「家(うち)読」の推進や絵本普及活動を展開している。

主な受賞に、上記の他、79年『ガン回廊の朝』で第1回講談社ノンフィクション賞、95年『犠牲(サクリファイス) わが息子・脳死の11日』とノンフィクション・ジャンルの確立への貢献で第43回菊池寛賞受賞、02年航空安全思想の普及への貢献で国土交通大臣特別表彰など多数。

第7回立教女学院短期大学図書館公開講座

講座概要

核家族化とネット社会の急激な進展は、生身の触れ合いと会話を激減させ、特に子どもが他者の思いを汲み取って思いやったり、人間関係をうまく構築したりする能力の発達を阻害している。そうした時代状況の中で、絵本が新しい意味と役割を持つようになってきていることに注目したい。家庭において、毎日絵本を親子が一緒に読んだり、相互に読み聞かせをしたりするのが習慣になると、親の枯れた感性が甦り、子どもは言葉や感性を発達させ、様々な気づきを通してすばらしい心の成長をしてゆく。そのような絵本の可能性について、絵本活動の中で出会った数多くの具体的なエピソードを紹介しながら話したいと思います。

申込期間

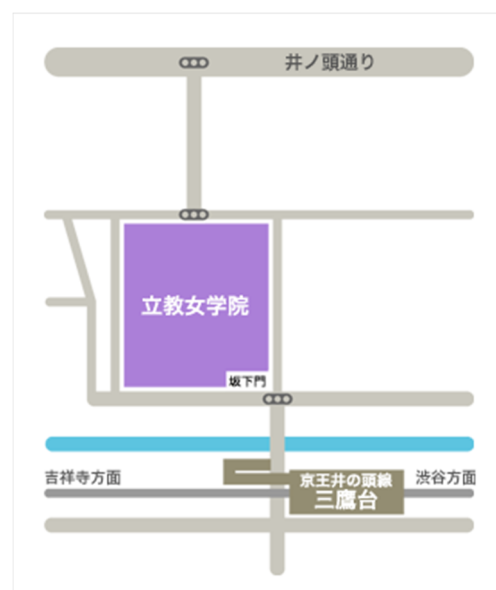
受講希望講座開講日の1週間前まで。先着順。(定員になり次第締め切ります。)

申込方法

「往復はがき」または「Eメール」にてお申込みください。

- ①受講希望日・講座名
- ②郵便番号・住所
- ③氏名(ふりがな)
- ④年齢
- ⑤性別
- ⑥電話番号

を必ず明記して、下記宛にお申込みください。また、返信用の宛名をお忘れなくご記入ください。「返信はがき」または「Eメールの返信(印刷したものをご持参願います。)」が受講票になりますので、ご家族などの場合でもお一人ずつお申込みください。



- * 警備の都合上、坂下門または短大門からお入りください。
- * 駐車場はありませんので、お車での来校はご遠慮ください。
- * 自転車でお越しの方は公設駐輪場をご利用ください。
- * 学生食堂は使用できません。
- * 託児所はございません。予めご了承ください。
- * 盗難・その他の事故については責任を負いかねますので、ご了承ください。
- * 今後、ご案内の郵送がご不要の方は、受講票にその旨明記の上、受付にご提出ください。

申し込み・問い合わせ 立教女学院短期大学主催・杉並区教育委員会共催

第7回立教女学院短期大学図書館公開講座係

〒168-8626 杉並区久我山 4-29-23

TEL 03-3334-7029 / Eメール stmlib@rikkyojogakuin.ac.jp